

## ～ 日本の森林 ～

北は北海道、南は沖縄まで日本はどこへ行っても森や林を見ることが出来ます。年間雨量は1000～4000mmの湿潤な地域にあり、しかも南北に長く連なっているので亜熱帯林から亜寒帯林まで種々のタイプの森が広がっています。その中で一番多く生育しているのが「杉」と「檜」、これらの活用が森を元気にします。

### ■天然林と人工林

日本の森林は大きく天然林と人工林に分けることが出来ます。天然林は自然に生育している樹木の内、利用可能まで生長した木を成長量に応じて伐採し、常にほぼ天然の状態を保っている森林です。一方、人工林は林地に植林し50～100年後、木材利用に適した大きさに成長するまで間伐や手入れを繰り返し木を伐採・収穫する森林です。



日本の全森林面積のうち人工林は4割強、天然林は6割弱です。これらが毎年7000万 $\text{m}^3$ 生長しているにもかかわらず活用されているのは2000万 $\text{m}^3$ で5000万 $\text{m}^3$ が増え続けています。

### ■森の成長はどれくらいか

杉林では、1ヘクタール(ha)当たり地方によって1000本～10000本の苗木を植え、林木の生長にともなって間伐を行なって残りの木の生長を促します。



杉は60年程度で収穫することが多く、間伐を繰り返して60年経過したときには立木の数は1ha当たり450本程度になります。その間に林木は樹高20～25m、直径30～35cm、1本の材積は約1 $\text{m}^3$ にまで生長し全体で450 $\text{m}^3$ にまで達します。



一方、この間に間伐によって伐り出される木材は約300 $\text{m}^3$ です。したがってこの林地は60年間に合計450 $\text{m}^3$ +300 $\text{m}^3$ =750 $\text{m}^3$ 、一年間で換算すると750 $\text{m}^3$ ÷60年間=12.5 $\text{m}^3$ の木材を生み出します。木材を育てる日本の自然の力強さを感じます。

檜は材積の生長は杉に比べて2割程度少なく、伐採期に達する期間も70～80年と長い期間が必要です。